

千代田区観光ビジョン



千鳥ヶ淵ボート場

千代田区

目 次

【本 文】

I 観光ビジョンの目的

- 1 観光ビジョンの背景—千代田・東京のなりたち— 1
- 2 千代田区における観光と観光ビジョンの理念 3

II 観光ビジョン実現の方向性

- 1 観光ビジョンにおける3つのキーワード 4
- 2 観光ビジョン推進に向けた4つのテーマ 5
- 3 テーマ推進に向けた取組みと施策の方向感 8
- 4 観光・交流しやすい安全・安心な都市環境づくり 11
- 5 取組みを推進していくために 13

【資料編】

- 1 千代田区民・事業者の観光振興への期待 17
- 2 日本人の観光に対する意識 20
- 3 千代田区の観光資源の状況 24
- 4 参考事例 31

I 観光ビジョンの目的

1 観光ビジョンの背景—千代田・東京のなりたち—

江戸期における参勤交代制度は、地方の多くの人々を江戸に呼び込み、当時の巨大都市としての賑わいを創出しただけでなく、地方の人々や文化の交流を生み出し、庶民による豊かな江戸文化を育みました。

また、明治から昭和にかけては、西欧文化が流入するとともに、経済の高度成長が進む中で、地方から多くの人々が首都東京に集まり、我が国の発展を支えてきました。

こうした地方出身の人々と、江戸以来の都市の包容力が相俟って、東京は、多様な交流があふれるまちとして、現在も都市の魅力と賑わいを維持しています。

千代田区には、これら先人の努力によって培われてきた歴史・文化をはじめ、日本の政治・経済の中心としての地の利や、先端技術を基軸とした知の集積など多くの資源が存在し、人々を惹きつけ、現在も多数の観光客が区内各所を訪れています。

千代田区における観光を考える上では、千代田の都市の魅力が、多様な人々や文化が交流し共生しながら磨き上げ、形づくられてきたという視点を忘れてはなりません。



江戸天下祭

千代田区の地域特性

- 日本有数のビジネス街である丸の内、政治・行政の中心である永田町・霞が関、IT関連が集積する秋葉原、特色ある専門店街としての神保町・小川町、閑静な住宅街の広がる番町・麴町など個性ある地域が皇居を中心に狭いエリアに存在
- 神田祭、山王祭などに象徴される江戸以来の文化・伝統と、IT技術などハイテクノロジーの最先端が共存
- 政治・経済・産業の活力と、千代田の地を発祥とする多くの大学や豊かな江戸文化を引き継ぐ区民などが育ててきた教育・文化的な雰囲気共存
- 多様なテーマを有する博物館・美術館・コンサートホール、世界に類のない古書店街、大学や専門・各種学校など豊富で個性的な文化・芸術資源、多様な学びの施設が存在
- 85万人ともいわれている昼間区民と様々な目的でまちを訪れる多数の人々 など

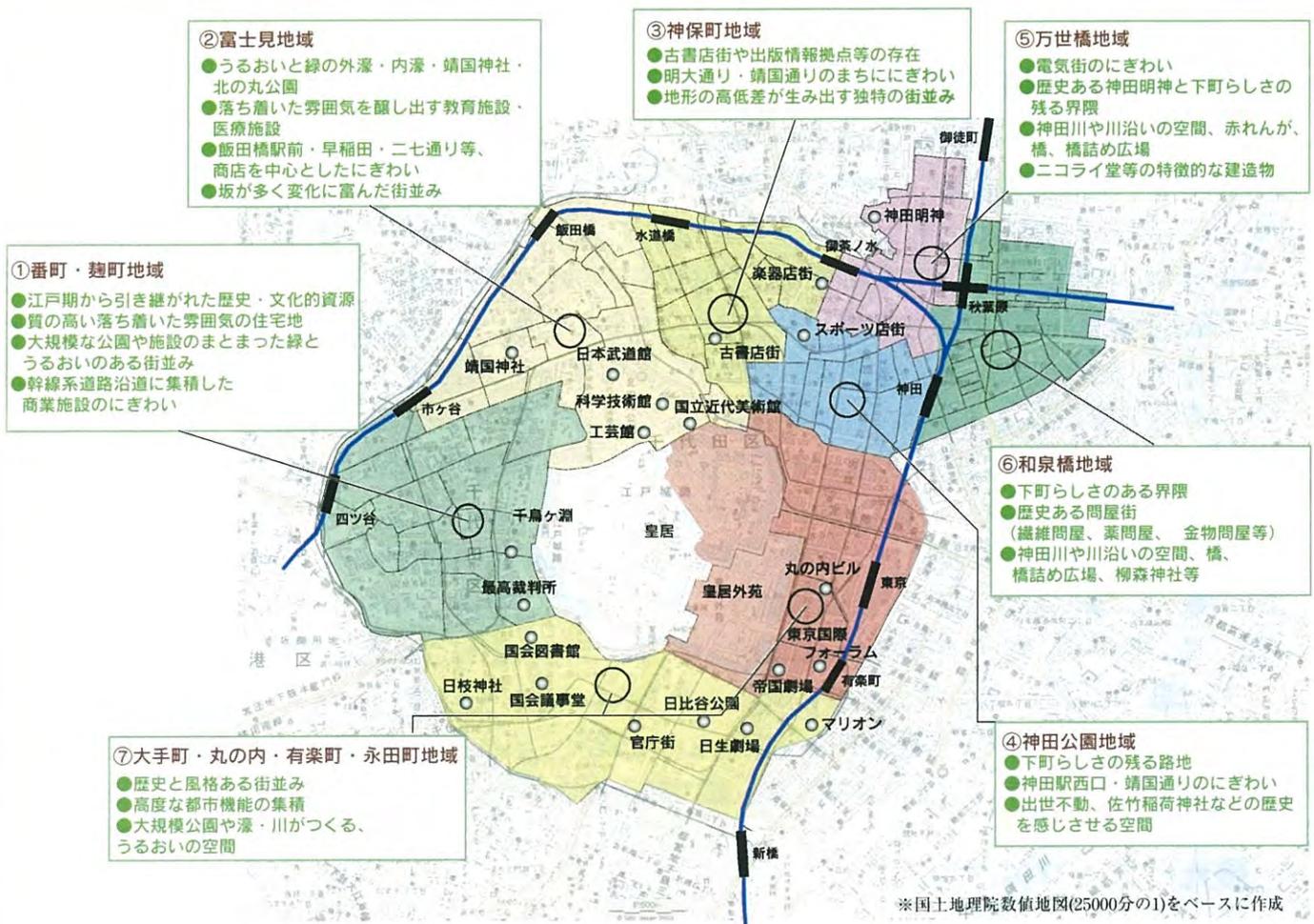


山王祭・神幸祭



神田祭・千貫神輿

図：各地域のまちづくり資源（千代田区都市計画マスタープランより作成）



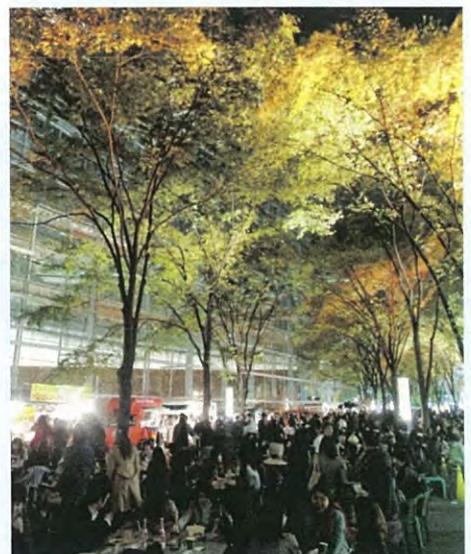
観光を取り巻く環境の変化

これまでの一般的な観光施策は、その経済波及効果から商工振興の一環として、名所・旧跡を活かし、テーマパークやイベントなどにより多くの観光客を呼び込み、地域でどれだけお金を使ってもらおうかという観点が強調され進められてきました。

高度成長期を経て、レジャーが大衆化し団体旅行中心の観光行動が一般化しましたが、バブル期以降、個人を単位とした観光が主流となり、昨今では、参加・体験型観光、研修やビジネス視察と連携した観光、産業観光など、人々が求める観光の幅も広がってきています。

特に、高い業務機能を有しながら、芸術・文化・歴史・街並・食・エンターテインメントなど都市の持つ多彩な魅力を楽しむ「都市観光」への関心も高まっています。

都市がこうした魅力を備えることによって、観光客を呼び込むだけでなく、豊かな生活空間を創出し、住み活動する人にとっても、生活しやすいまちづくりにつながっていくものといえます。



エスニックな料理や音楽を都市の中で楽しむ「ネオ屋台村スーパーナイト」（東京国際フォーラム）

2 千代田区における観光と観光ビジョンの理念

(1) 千代田区の目指す観光

千代田区において、「名所・旧跡」や「景勝地」、「テーマパーク」を訪れるなど、一過性の楽しさを求める「観光」を推進し、単に来街者を増やすことを目指すだけでは、来街者の増加による安全性に対する不安など、そこに住む区民にとっては必ずしも歓迎されるものではありません。

このため、単に来街者の数を増やすのではなく、「千代田区が持っている魅力を体感したい」、「千代田区で生活する人々と心の通った交流をしたい」と思う人々を増やし、迎え入れていくことが大切です。そのためには、個性のない都市化の進行の中で埋もれつつあった、千代田が本来持っている魅力を、「光」の輝きへと磨きあげ、千代田の「光」に触れたいと思う人々を増やしていくことが必要です。また、それは、そこに住み、働き、学ぶ区民が地域に魅力を感じ、誇りを持てるまちをつくっていくことにほかなりません。

このような「観光」を推進し、地域を訪れる人々との新しい出会いと心の通った交流を育みながら、新しい地域活動や文化の創造を促すことが、そこに住み、働き、学ぶ区民の日常生活をより楽しく、豊かなものにすることにつながります。また、それは千代田区を訪れた人一人ひとりに、千代田を楽しみ、豊かな価値ある時間を提供することにもつながります。

千代田区では、「観光」の推進を通じて、住み、働き、学ぶ人々が、楽しく、豊かな日常生活を送ることができ、だれもが誇りを持てる、魅力あるまちづくりを進めていきます。

(2) 観光ビジョンの理念

千代田区で生活し、交流する人々が、豊かで価値ある時間を享受できる「観光」の取組みは、千代田区だけの優位性を強調し、行政のみが施策を進めることで可能となるものではありません。地域内外の多様な主体が協働し、共生の視点で取り組むことによって、はじめて成し遂げられるものです。

人々が心から訪れたいと思うまちは、そこに住んでいる人、働いている人、学んでいる人にとっても優しく、誇りを持てる魅力あるまちにほかなりません。こうしたまちづくりを多様な主体が参画しながら進めていく上での指針として、以下の基本理念のもと「観光ビジョン」を策定します。

千代田区観光ビジョンの基本理念

— 千代田区に住み集う多様な人々が誇りを持てるまちに —

住みやすく、働きやすく、そして、人々が交流しやすいまち

Ⅱ 観光ビジョン実現の方向性

1 観光ビジョンにおける3つのキーワード

観光ビジョンの理念を実現するための取組みを推進していく上で、常に念頭に置くべきキーワードを「共生」「交流と創造」「癒しと健康」としました。

キーワード1 共生

単に多くの人を集める観光ではなく、環境との調和を図りながら、高齢者・障害者はもちろん様々な人々が共に魅力ある地域を形成し、それをお互いに楽しみながら、豊かな時間を過ごせる千代田区を目指します。

大手町・丸の内・有楽町地域や秋葉原などの最先端の都市機能と皇居などの自然・歴史的な景観が共生する、千代田区ならではの都市観光の取組みを進めていくことが大切です。

また、地方と都市とが対立するという関係ではなく、補完関係、相乗効果を生む共生の関係を構築し、お互いに利益を享受しあうには、千代田区は最適な舞台です。都市と地方との連携を基軸とする観光施策を構想していきます。



光都東京LIGHTOPIA2006
アンビエントキャンドルパーク
明かり絵の製作には千代田区立小学校児童が参加

キーワード2 交流と創造

江戸以来、多くの人々が集い、交流してきた千代田区には、新たな交流を生み出し、それをベースにして技術・産業・文化など新しい価値を創造する可能性が内在しています。それらを実現していく取組みを推進していくことが大切です。

千代田区で培われている多様な歴史・文化・芸術・学術などに、国内外からの来街者が触れる機会を幅広く創出し、千代田区に住み、働き、学ぶ人々と来街者とが、それらを通して交流することにより、新たな文化の創造の可能性が拡大します。

また、大量退職を目前に控える団塊の世代の方々の経験や高い意欲を活かすとともに、活動的で有能な団塊の世代の交流の場、楽しみの場、そして学びの場を提供していきます

キーワード3 癒しと健康

「癒しと健康」への関心を持つ人たちが増えていきます。また、こうした人たちの生活スタイルにあった取組みが、人々が豊かな時間を過ごすことができる都市としての魅力を高めていきます。

皇居や日比谷公園など都市の中の自然、豊富な文化施設や大学等の教育機関などが集積する千代田区には、「癒しと健康」を求める人々に多様なメニューを提案する可能性があります。



都市の自然の中での健康づくりは多くの人を惹きつける
(皇居周回マラソン)

2. 観光ビジョン推進に向けた4つのテーマ

観光ビジョンの理念の実現に向け、3つのキーワードを念頭におきながら、具体的な取組みを推進するために、重点的に取組むテーマを設定します。

豊富な歴史・文化資源、特色ある地域の存在、産業の集積、千代田区の地の利などを背景に、以下の4つを観光ビジョンのテーマとしました。

4つのテーマ

- 1 江戸以来の歴史・文化をベースに未来を展望
- 2 歩いてこそ体感できる都市の魅力づくり
- 3 新たな交流と創造を促す「産業観光」の推進
- 4 全国の市町村との連携・交流を強める

テーマ1 江戸以来の歴史・文化をベースに未来を展望

江戸は、自然や環境、地方、異文化との交流など多様な面で共生を実践し、「交流と創造」の拠点として先進的な都市機能や都会的センスにあふれていました。

地域に根付いた祭事、日本のこころともいえる桜の名所、伝統ある老舗の魅力など、江戸以来、庶民により培われた豊かな歴史・文化を再認識し、そこに現在の視点から彩りを添えて次代へ伝えていく必要があります。

さらに、千代田区が持っている先進性・先端性と江戸以来の歴史的・文化的魅力を見出し、地域への愛着や誇りを持てるような「未来志向」の取組みにもつなげていく必要があります。

こうした取組みを通じて育まれる地域に対する誇りが、千代田区の魅力を自ら発信することにつながり、また、地域を訪れる人々へのおもてなしの心にもつながります。



お濠の桜をライトアップし、現代的に彩りを添える
(千鳥ヶ淵)



東京音頭のもととなった「丸の内音頭」
(日比谷公園)

テーマ2 歩いてこそ体感できる都市の魅力づくり

千代田区には大手町、丸の内、麴町、神田、飯田橋、秋葉原など個性豊かな地域が皇居を中心とした狭いエリアの中で円を描くように存在しています。多様な個性を「歩いて」体験してもらうには最適な地域といえます。今後、それぞれの地域が潜在的に持っている個性を、さらに魅力あるものに高めていくことが重要です。

例えば、「裏通り」が面白く新たな発見を楽しめる地域、緑豊かな都市の自然や癒しの空間を満喫できる地域、先端のテクノロジーを体感できる地域、多種多様な食を堪能できる地域などを、まち歩きの視点で結びつけていきます。

まち歩きを通じて、都市の中で芸術や文化などが身近に感じられ、いつも楽しさを感じることでできるまちは、区民の日常生活における豊かさや新たな発見ももたらします。



「まち歩き」が楽しい本のまち神保町

テーマ3 新たな交流と創造を促す「産業観光」の推進

産業観光は、一般的には、閉山された炭鉱などの産業遺産、企業や町工場の博物館・資料館、稼動している工場などを見学し、体験・体感する観光をいいます。しかし、多くの企業が集積し、技術、情報が行き交う千代田区では、地域全体の産業活動そのものが観光資源といえます。

千代田区において産業観光を推進することは、企業の有する先進性、伝統的なものづくりの技、全国の市町村の地域特性など、これまで出会ったことがないもの同士の交流を促し、それにより新たな価値を生み出し、次代の産業や社会を担う人材の育成につながります。

例えば、秋葉原の先端技術と伝統的なものづくりの技術とが結びつくことで、福祉や環境などの面で社会に貢献する新たな産業技術の創造の可能性が広がります。



秋葉原には先端技術や情報が集い、新たな交流と創造を促す (アキバロボット運動会)

テーマ4 全国の市町村との連携・交流を強める

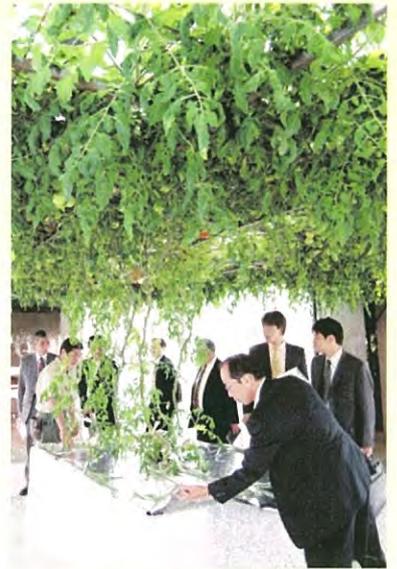
千代田区における観光資源は、様々な地域の人々との共生によって培われてきたものです。千代田区が日本各地の市町村の「結節点」として、さらなる情報発信、交流の場を提供することで大きな付加価値を創造することにつながります。

地方との交流の拠点として、千代田区内には多くの地方がアンテナショップを出店しています。しかし、県レベルの出店がほとんどであり、地方における真の特色・個性に触れにくく、千代田区とのつながりも希薄でした。今後は、県レベルでは取り上げられにくく、その個性を発信できる機会が少なかった市町村が、千代田区の来街者にそれぞれの魅力をプロモーションできるような取組みを、進めていく必要があります。

また、単なる地方のプロモーションにとどまらず、千代田区という地域にも貢献できるような都市と地方の連携を推進していきます。

例えば、「食」の安全・安心に対する関心が高まっている中、全国の市町村が健康志向でおいしい農産物等のプロモーションの場として千代田区というステージを活用することにより、多くの区民、来街者は本物の食材の一端に触れることができます。

また、市町村レベルの事業展開の中で、交流が芽生え、千代田区民もグリーンツーリズムなどにより地方の豊かな自然を体験できるなど、地方との連携には大きな可能性があります。



オフィスビルの地下に農園を設け、都市から農業を発信する新しい試み（パソナO2）

学生が運営支援する市町村アンテナショップ



三浦市「なごみま鮮果」



孺恋村「ふれあい神田市場」

3. テーマ推進に向けた取組みと施策の方向感

4つのテーマの推進に向け、重要な3つのキーワードを念頭に取組みを推進していきます。

(1) 地域の魅力に触れる —地域の魅力ある資源の認識・発掘—

千代田区で住み、働き、学んでいる人々の多くが、身近な地域の歴史・文化を知っているかといえば、必ずしもそうではありません。身近だからこそ知らないことも多いものです。

その時々時代に、先人が積み重ねてきた地域の歴史や江戸以来の文化はもとより、産業の集積、進化をし続ける先端技術、日々変化するまちの実態、国内外の結節点としての多様な文化との交流など、千代田区の様々な魅力に触れることは、地域の誇りを育むことにもつながります。

また、千代田区で住み、働き、学び、集う人々それぞれが持つ「ふるさと」の文化・感性に互いに触れ合うような交流を図っていくことも、結節点としての千代田区に求められています。

取組みの方向感

- 地域の歴史・文化や日々変化する都市の現況などに触れることをきっかけとして、地域の誇りを育み、これまで地域活動に消極的であった人々の主体的な参画を促すことが期待できます。
- 伝統的なものづくりの技、集積する先端技術、千代田の地を発祥とする大学や日本経済を牽引する企業等の「過去、現在、未来」などに触れる機会を創出することで、社会に貢献する新たな技術の創造や、次代を担う人材の育成につながることも考えられます。
- 江戸期に培われた庶民による豊かな文化や歴史を、地域の人々や各地方の人々などとともに発掘・研究することで、江戸以来の歴史・文化を見つめ直し、江戸をキーワードとした新たな交流が生み出されます。



先端技術を楽しく体験
(アキバロボット運動会)

(2) 地域の魅力を維持し、発展させる ―地域の魅力ある資源の磨き上げ―

地域の観光資源を、維持し、発展させ、さらに魅力あふれるものに磨き上げるとともに、これまで観光資源としては捉えられていなかった地域の資源も、観光の視点で活用する取組みを進めます。

取組みの方向感

- 地域の人々や周辺区などと連携しながら、歴史的価値を有するお濠の保全と活用、神田川、日本橋川などの親水性の向上などにより、自然と共生しながら水辺を楽しむ、都市における癒しの空間を創出します。
- 千代田区内に点在するさくらの名所について、他の地域にはない魅力ある観桜スポットとするため、自然と共生し、癒しと健康に繋がるようなさくらの楽しみ方を提案していきます。また、江戸以来の観桜風習や桜の季節感を取り入れた菓子・料理やもてなし方を文化の観点から再編集するなど、千代田ならではのさくらのイメージの向上に取り組みます。
- 官公庁や大学等の研究機関の見学、先端技術・モデルの体験、有名飲食店の厨房の公開やレシピの学習、伝統工芸品工房の体験、一般には公開されていない大企業のショールーム等の見学など、区内のあらゆる産業や活動の現場を、ストーリー化・ルート化していきます。
- 歴史・文化のシンボルともなる史跡や個性的な観光ルートなどを分かりやすく示すことによって、地域の魅力をさらに高めるとともに、多様な人々の交流を促します。
- 多様なテーマの博物館・美術館・コンサートホールなどのネットワーク化の推進はもとより、アートが感じられる街づくりやミュージアムと飲食店との連携などにより、芸術に触れた後の余韻も楽しめるまちを目指していきます。



都心の潤いある水辺に親しむ
(神田川船の会)



学びながら桜を楽しむ
(千鳥ヶ淵)



まちをアートで埋め尽くす
(丸の内カウパレード)

(3) 地域の魅力を創る ―地域の魅力ある資源の創出―

千代田区の立地を活かしながら、多様な人々や文化の交流により、新たな魅力ある地域の資源を創出していきます。また、千代田区の企業活動の多くを占める中小企業などの技能や発想が新たに生み出す「種」を地域の魅力として育てる取組みを推進します。

取組みの方向感

- 全国の意欲ある市町村の「結節点」として、全国市町村の本物指向のアンテナショップを展開することにより、都市と地方が対立するのではなく、補完・相乗効果を生み出す関係を構築します。そのことが、千代田区と市町村同士の交流を育み、新たなものの創造につながることが期待できます。

◇都市と地方の交流を幅広く展開するには、単に来街者の多い地域への出店ではなく、「平和」や「祭り」、「食」などのテーマに沿って、アンテナショップが集積し、面的に展開することも効果的といえます。出店する市町村の方々、地方にゆかりのある区民や在勤者、学生、障がい者など多様な人々が運営に携わる仕組みにより、幅広い交流を促すことにつながります。

- 失われてしまった江戸時代の名物やイベント、現存する豊富な文化資源と先端技術を結びつけることにより新たな地域の魅力を創出していきます。例えば、歴史的建造物や浮世絵などの歴史的資源を、先端的技術を活用して、建築・デザインなど新たな価値を創造していくような取組みを進めます。
- 個別の中小企業では商品化しにくい技術・商品などを束ね、新たな魅力ある資源を創出する機会づくり、多様な人々が交流し刺激しあえる場づくり、新たな資源を生み出す人づくりを進めていきます。

広重・江戸名所百景「山下町日比谷外さくら田」
高精度でデジタル化された浮世絵は、活用の可能性を広げる
Photograph ©2006 Museum of Fine Arts, Boston. All rights reserved
William Sturgis Bigelow Collection, 1911 11.35837



郷土の鍋が人と人をつなぐ
(天下祭・五城目町ブース)



4 観光・交流しやすい安全・安心な都市環境づくり

観光施策を確実に進めていくためには、千代田区を訪れるあらゆる来街者、住み、活動する多様な人々が、観光し、交流し、豊かな時間を過ごせる安全・安心・快適な都市環境を構築する必要があります。

これらの取組みについては、行政の役割も重要であり、千代田区も観光を基軸として施策横断的に取組んでいきます。

(1) 誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの視点でのハード・ソフトの整備

千代田区では、皇居を除く区内全域が交通バリアフリーの対象地域となっていますが、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの視点で、さらに取組みを進める必要があります。こうした取組みは、個々の施設だけで考えるのではなく、移動しやすい空間の整備もあわせて進める必要があります。また、多言語化や音声案内など表示・ガイド機能の面でも外国人の方、障がいのある方はもとより、すべての人々に分かりやすいものにしていく必要があります。

(2) いつでも、どこでも手軽に必要な情報を受発信できる取組み

インターネットや携帯電話は飛躍的に普及しており、その機能も秒進分歩に進化しています。これを受け、訪れた人がまちのいたるところで、必要な情報をいつでも手軽に入手できる環境づくりが必要です。

イベント等千代田区の魅力に触れる機会を創出する情報はもとより、初めて千代田区を訪れた人への案内情報などを利用しやすいツールを活用して提供していきます。



観光資源の情報に携帯電話で
手軽にアクセスできる
丸の内ユビキタスマジューリアムの試み
<http://tokyo-dmy.jp/>



(3) 徒歩と組み合わせた多様な地上交通による移動・回遊性確保を検討

千代田区の交通インフラは国際的にも高い水準にあります。しかし、地下鉄の駅が多いということから、初めて訪れた人には、わかりにくく、使いにくいという面もあります。今後、観光の観点からも巡回バスや*LRTなど多様な地上レベルでの交通の確保について検討していくことが必要です。特に、LRTは、事業採算面や都市の交通政策上の課題がありますが、環境やユニバーサルデザインの点では優れており、徒歩と組み合わせた地上レベルでの回遊性を向上する可能性も持っています。

※LRT：Light Rail Transit の略。環境・観光・ユニバーサルデザインなどの観点から路面電車を進化させた新しい交通システム。

(4) 伝統的建築物、水辺空間などの環境保全と景観づくり

良好な都市環境や景観づくりは都市の魅力を創出する重要な要素です。特に、水と緑にあふれた水辺空間は、都市に癒しと潤いを与え、人々が集まる魅力的なスポットになります。日本橋川や神田川、皇居の濠などの水質を改善し、親水性のある都市空間を創出していく必要があります。



都市機能と歴史景観が共生
(丸の内オフィス街と皇居内濠)



歴史的建造物をライトアップ
(東京駅)

(5) 誰もが安心・安全に地域での豊かな時間を過ごせる仕組みの構築

これまで区の多様な人々が参画しながら進めてきた生活環境や安全・安心の取組みをさらに推進していく必要があります。また、訪れた人、特に海外からの旅行者が犯罪に会ったときのサポート体制の整備などを検討していくことも必要です。

また、災害はいつ訪れるかわかりません。観光交流でにぎわう地域では、迅速で正確な情報提供を行う手段を整備していく必要もあります。



地域の生活環境と安全・安心を守る
(生活環境パトロール)

5 取組みを推進していくために

(1) 「地域の総合力」を生み出す地域内連携

観光に関する取組みを進めていくためには、地域と産・官・学の協働が不可欠です。多面的な連携により、“地域の総合力”を結集して取り組むことで、大きな相乗効果が発揮できます。

地域の多様な主体が参画する地域密着のイベントなどを通して、地域内での心の通じあう交流を育み、地域自体が持つおもてなしの心が形づくられていきます。こうした地域の輪は、来街者などとの心のかよったさらなる交流を創出することになります。



地域の様々な人々の参画が地域の活力を生む
〔万世橋ルネッサンス〕秋葉原UDXビル

(2) 「交流と創造」を生み出す地域間連携

全国各地の市町村との連携により、区内の事業者は、いながらにして全国の多様な市町村のモノ・情報・人との交流の機会が得られます。また、こうした連携を通じて新たなビジネスチャンスの創出も期待できます。

都市と地方が、互いの強みを出し合い、互いの弱みを補完しあう連携が必要です。例えば、市町村のアンテナショップの展開は、本物志向で意欲のある市町村の特産物の都市におけるプロモーションを支援することとなります。このことが、千代田区にとっても地方との交流を促す自治体としての評価と大きな集客資源を獲得することにつながります。

また、観光振興に力を入れる国や都、周辺区とも必要な連携を行っていくことも大切です。



秋田・湯沢市との民間交流
（神田駅西口商店街の絵とうろう祭）

(3) 「観光」の視点での施策間連携の推進

観光に関する取組みは、産業、文化・芸術の振興、まちづくりなど行政のあらゆる分野に関連するものであり、このビジョンの目指すべき理念を念頭において施策横断的に推進していきます。

(4) 多様な連携の中核を担う組織の確立

ビジョンで示す取組みを機動的に具体的に進めていくためには、行政のみでできるものではなく、千代田区で活動する企業群や、地域の魅力の向上に取り組む区民等多様な主体を結び付ける民間主導の中核組織が必要です。中核組織としては、千代田区内の企業が多く参画している千代田区観光協会の役割が重要となります。

(5) 観光施策の担い手の育成

観光を通じたまちづくりを進めていくためには、地域の中で具体的に観光施策のプロジェクトを推進し、地域の魅力を磨きあげていく人材や地域の魅力を分かりやすく伝える観光ボランティアなどを育てていく必要があります。

千代田区で働き、学ぶ区民が、千代田区の魅力に触れ、それらを感じ、誇りに思い、そして、千代田区の魅力を自ら伝え、観せる「サポーター」にもなってもらえるような取組みを行うことも必要です。

誰もが誇りを持ち、魅力あるまちを実現していくためには、千代田区に住み、働き、学ぶあらゆる人々が、観光を通じたまちづくりの担い手として、相手を思いやる気持ちを持ちながら、訪れる人との心の交流による絆を深め、自ら地域の魅力を磨き上げていくことが重要です。千代田区を訪れた人々をあたたかく迎え入れ、千代田の地でともに楽しく、豊かな時間を過ごすことができるような取組みを進めていくことが大切です。



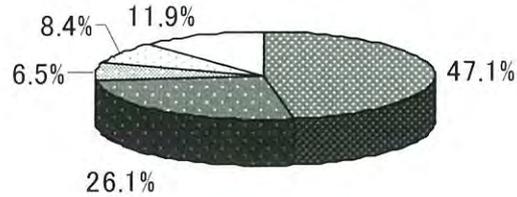
地域の貴重な観光資源であるさくらを守る
(さくらサポーターの募集)

【資料編】

1	千代田区民・事業者の観光振興への意識	17
2	日本人の観光に対する意識	20
3	千代田区の観光資源の状況	24
4	参考事例	31
	・体感できるまちあるき	
	・市町村アンテナショップ	
	・地域の魅力を高める取組み	
	・ユニバーサルデザインのまちづくり	
	・観光と連動する多様な地上交通	
	・水辺空間の活用	
	・多様な主体を結びつける取組み	
	・都市と地方との交流	

千代田区民の観光振興への意識

千代田区の観光振興への取り組み方
 <千代田区民の意識>

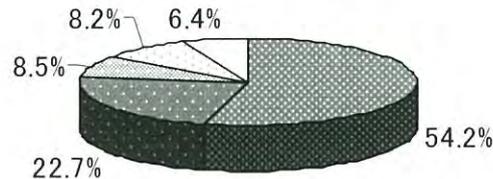


- 千代田区としても、より積極的に観光施策に取り組むべきだと思う
- 観光は、観光施設や民間事業者の集客努力等に任せ、行政機関はその支援に徹するべきだと思う
- 千代田区の観光は、東京都や各観光施設の取り組みに任せれば良いと思う
- 分からない
- 不明

出典：「平成16年度千代田区観光ビジョン策定に伴う実態調査」千代田区・(財)日本交通公社

千代田区の事業者の観光振興への意識

千代田区の観光振興への取り組み方
 <区内事業者の意識>

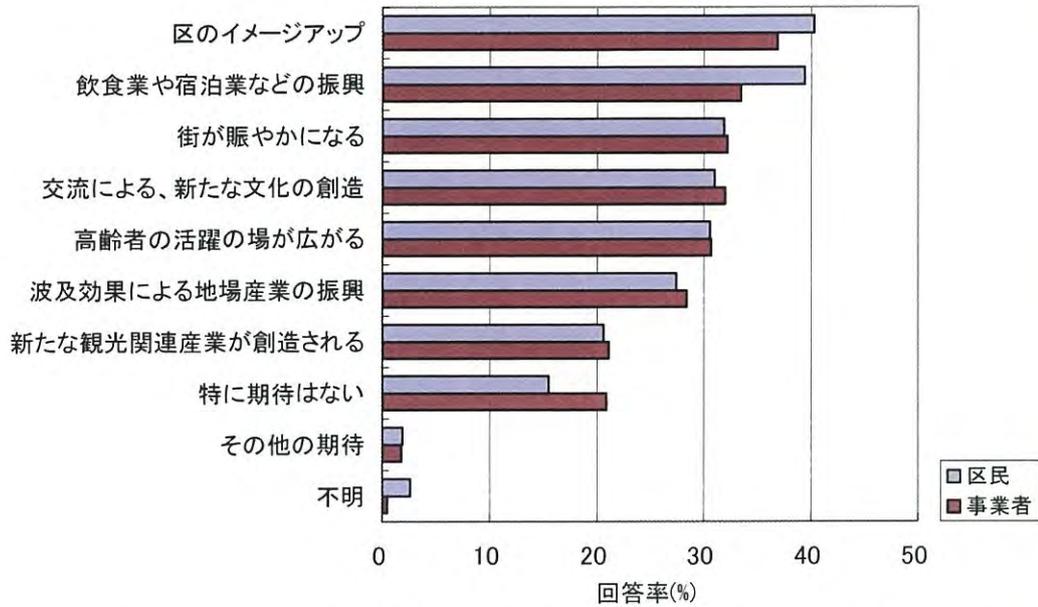


- 千代田区としても、より積極的に観光施策に取り組むべきだと思う。
- 観光は、観光施設や民間事業者の集客努力等に任せ、行政機関はその支援に徹するべきだと思う。
- 千代田区の観光は、東京都や各観光施設の取り組みに任せれば良いと思う。
- 分からない
- 不明

出典：「平成16年度千代田区観光ビジョン策定に伴う実態調査」千代田区・(財)日本交通公社

千代田区で観光振興に取り組むことへの期待

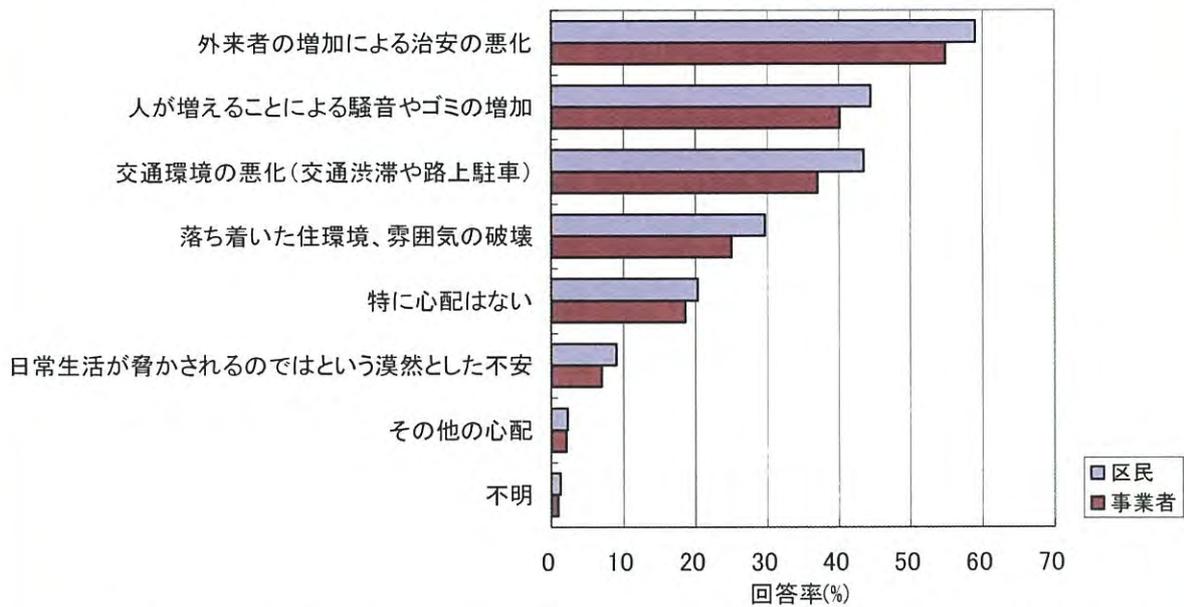
千代田区で観光振興に取り組むことへの期待



出典：「平成16年度千代田区観光ビジョン策定に伴う実態調査」千代田区・(財)日本交通公社

千代田区で観光振興に取り組むことへの不安

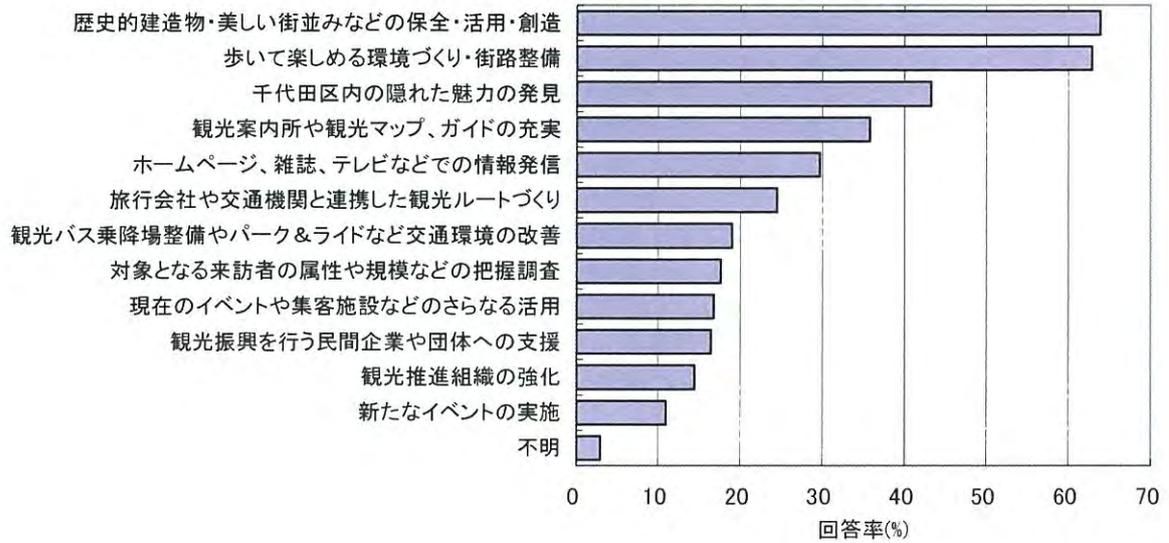
千代田区で観光振興に取り組むことへの不安



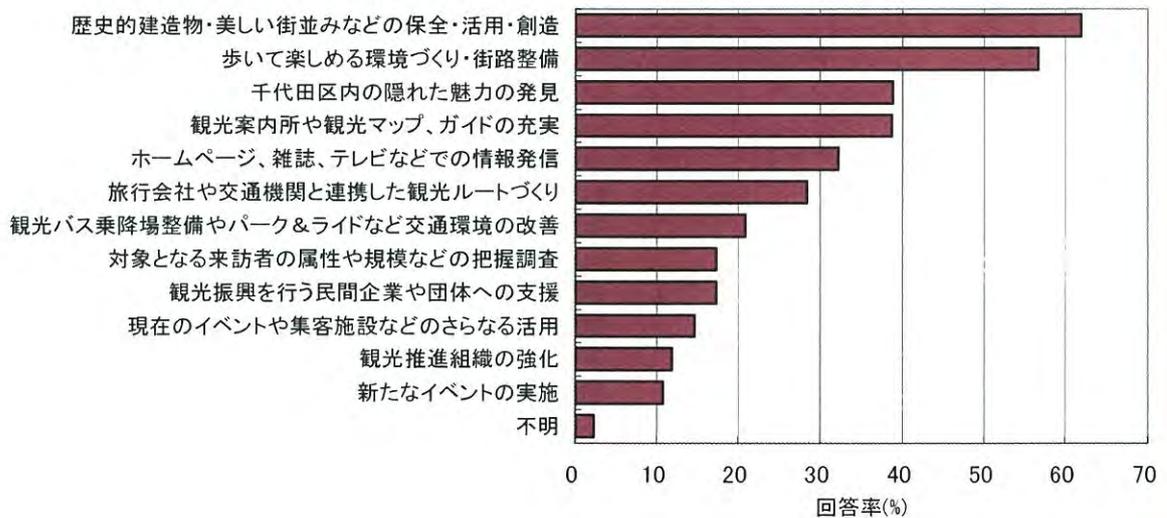
出典：「平成16年度千代田区観光ビジョン策定に伴う実態調査」千代田区・(財)日本交通公社

千代田区で観光振興における重要な項目

千代田区の観光における重要項目(区民アンケートより)



千代田区の観光における重要項目(事業者アンケートより)



出典：「平成16年度千代田区観光ビジョン策定に伴う実態調査」千代田区・(財)日本交通公社

2 日本人の観光に対する意識

(1) 行ってみたいと思っている旅行タイプ

日本人が行ってみたいと思っている旅行タイプの回答によると、千代田区でも重要な要素となる「グルメ」は2位で約半数の旅行者が魅力を感じており、「歴史・文化観光」については、約4割の旅行者が魅力を感じている。「ショッピング」「町並み散策」「都市観光」「芸術鑑賞」「花の名所巡り」なども含めてここ数年でいずれも人気上昇傾向にある。

(財)日本交通公社による「旅行者動向調査」

国内・海外旅行者の意識と行動を把握するために、1998年以降、年1回の頻度で実施し、「旅行者動向」として発表している。

調査対象: 全国 18歳以上の男女

調査方法: 郵送による調査票の配布と回収、
回答者本人による筆記調査

調査時期: 毎年 10月

調査数: 配布数 毎年 4,000票

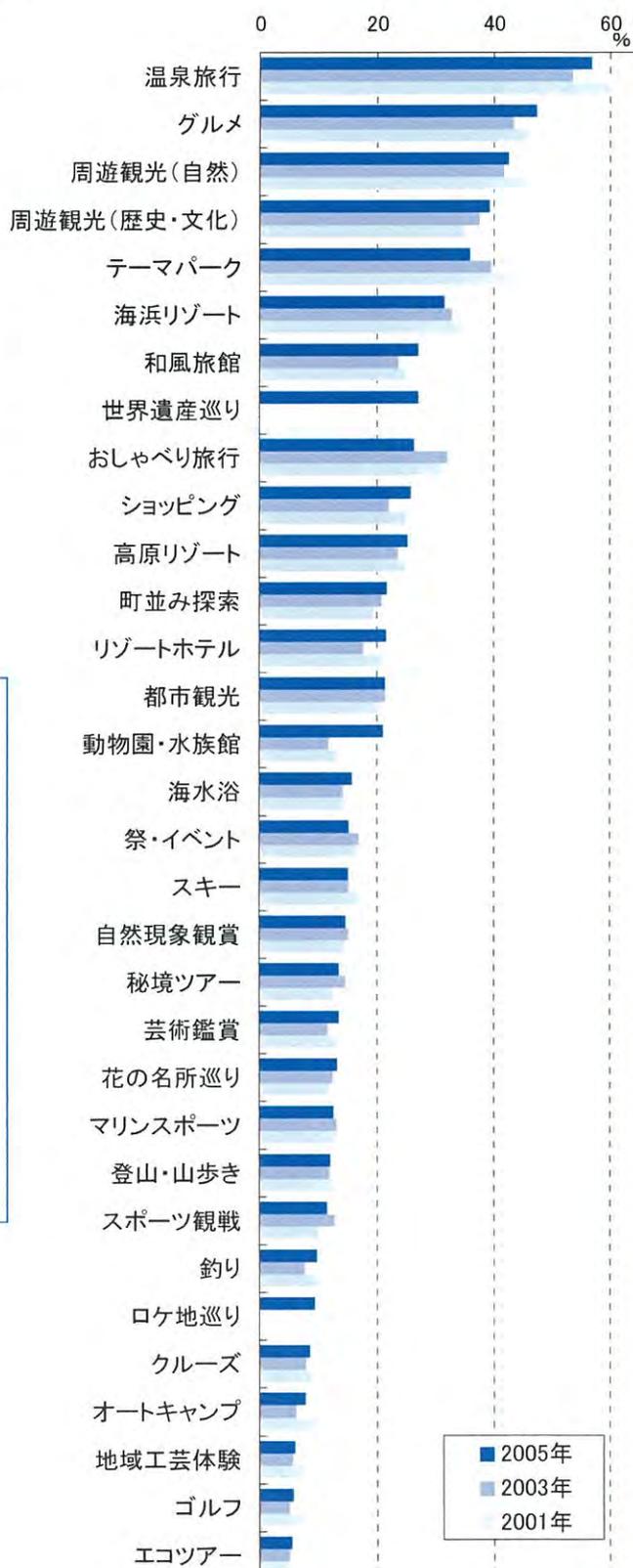
回収数 2,440票(2006年版)

2,511票(2005年版)

回収率 61.0%(2006年版)

62.8%(2005年版)

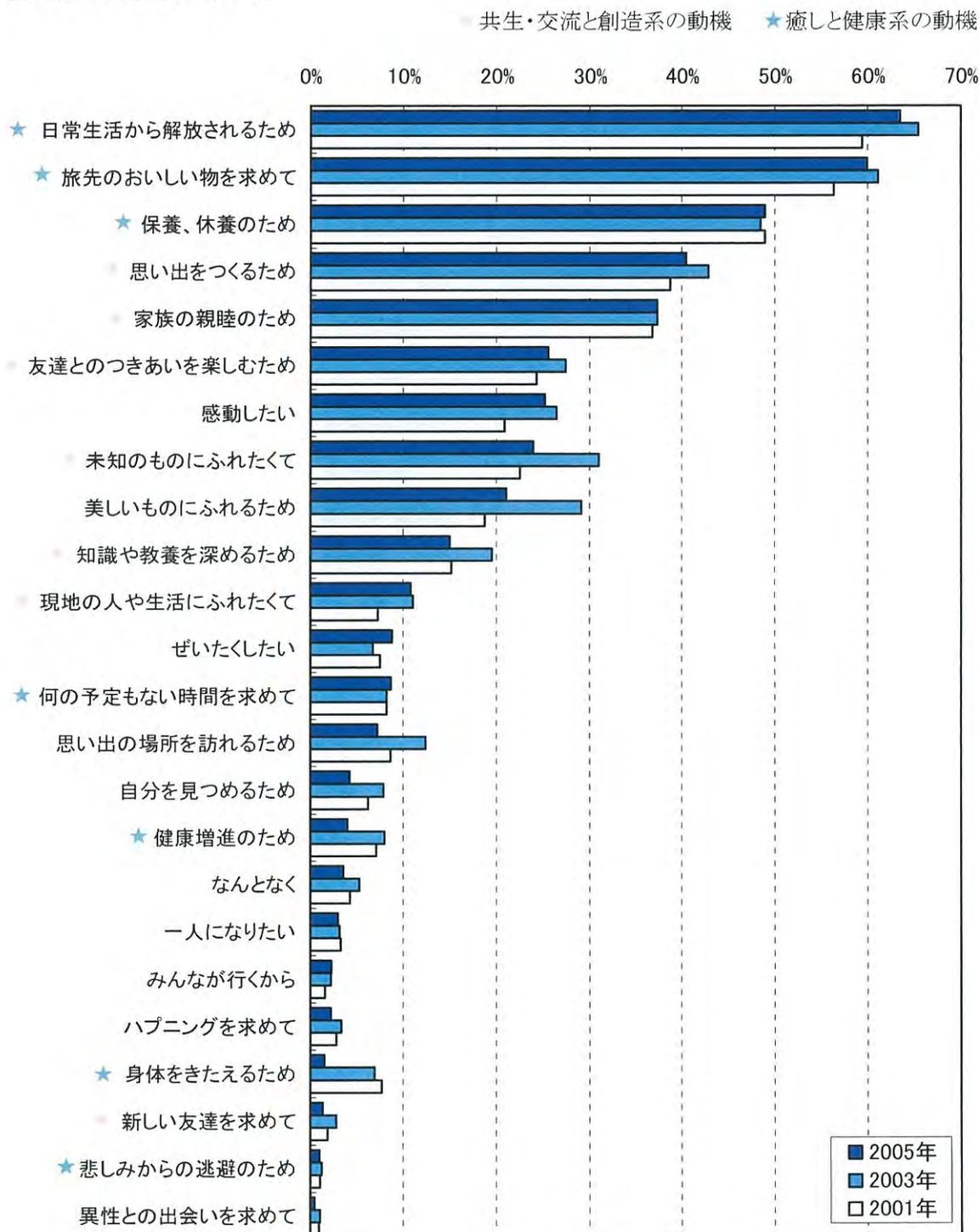
調査内容: 観光レクリエーション旅行の実態、特定の旅行スタイルの経験と意向、行ってみたい旅行、旅行の動機など



出典: 「旅行者動向 2006」(財)日本交通公社

(2) 旅行の動機（キーワードとの関連性）

日本人の旅行の動機を見てみると、上位3位は「日常生活から解放されるため」「旅先のおいしいものを求めて」「保養、休養のため」という精神的・身体的癒しを求めた動機が並び、家族や友人といった身近な人との交流、創造につながる刺激や教養、現地の人との交流がその後に続く。



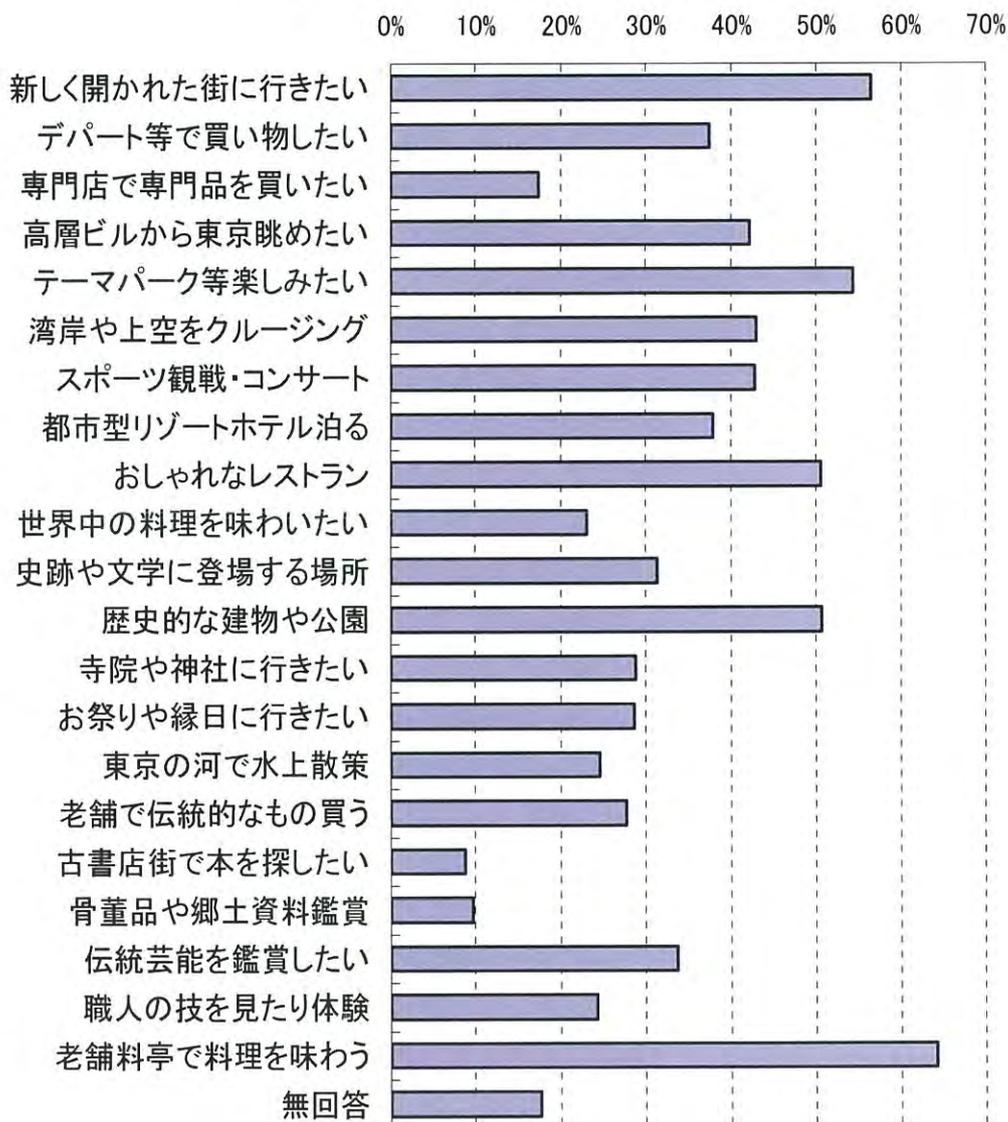
出典：「旅行者動向 2006」（財）日本交通公社

(3) 東京観光に対する関心

* 東京観光＝都心部でのショッピングやレジャー、名所旧跡巡りとして調査

全国の旅行者で東京観光に興味があるという回答をした旅行者（約4割）のうち過半数が、興味をもっている要素としてあげたのは、雰囲気の良い場所（老舗料亭やおしゃれなレストランなど）での食事や新しく開かれた街、歴史的な建物や公園（図1）。千代田区はこのいずれの要素も持ち合わせているが、行きたい場所としての認知度は高くない（図2,3）。

図1 東京観光で興味のあるもの（複数回答）



出典：「旅行者動向 2005」（財）日本交通公社

図2 東京観光で行きたい「歴史・文化にふれる」場所(複数回答)

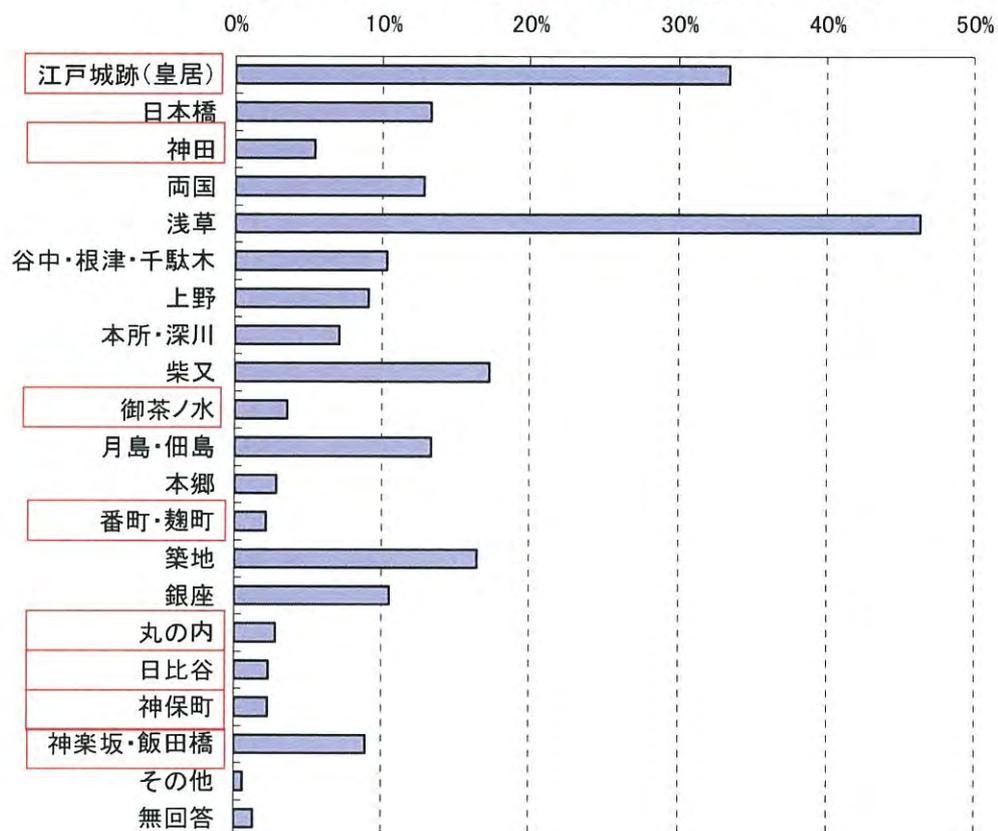
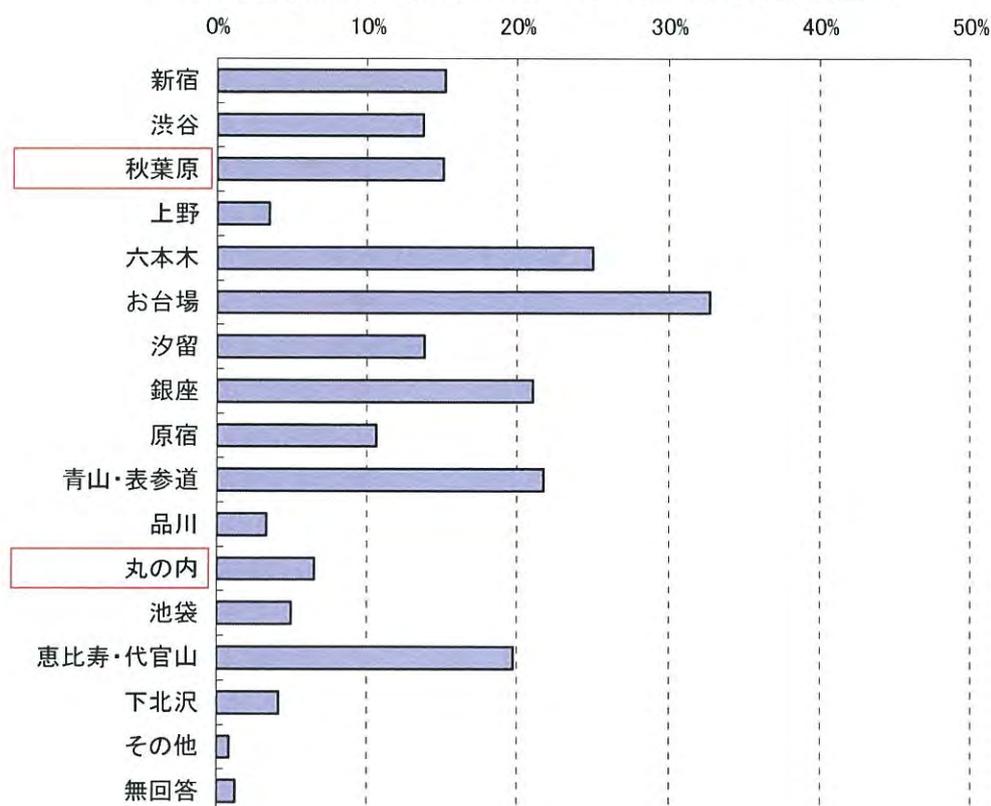


図3 東京観光で行きたい「最先端の流行を追う」場所(複数回答)



出典：「旅行者動向 2005」(財) 日本交通公社

3 千代田区の観光資源の状況

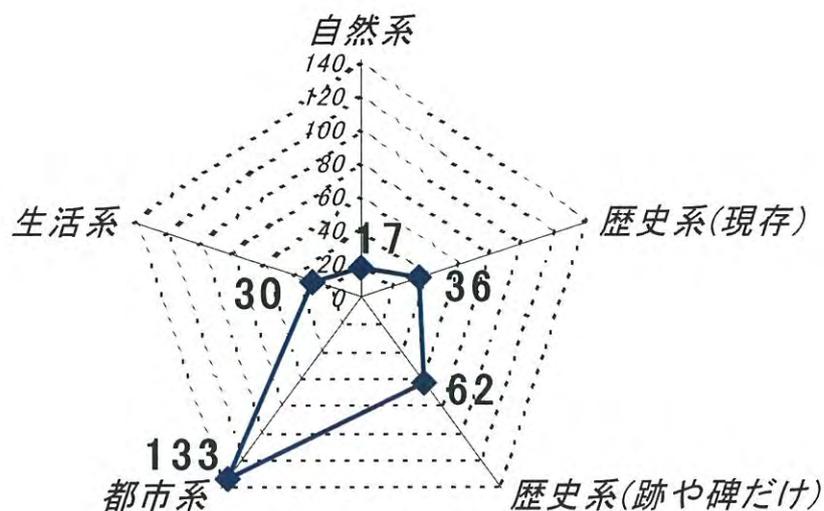
観光資源台帳による観光資源の分布状況(平成16年度観光ビジョン策定に伴う実態調査から)

千代田区の観光資源の特性を把握するために、以下の分類を行った。

財団法人日本交通公社(JTBF)の観光資源台帳、東京都観光資源台帳、各種ガイドブック等から千代田区が有する資源を抽出し、「自然系」・「歴史系」・「都市系(文化施設・ホテルなど)」・「生活系(年中行事・イベントなど)」という大きく4つの分類を行った。さらに、跡地や碑という形の観光資源の多さを鑑みて、歴史資源については現存するものを「歴史系」とし、跡や碑だけのものを「史跡系」の2つにわけ、計5つの大分類を行った。

千代田区全体

千代田区全体としては、都市系の資源が極めて多く、続いて、「歴史系資源(跡や碑だけ)」や、「歴史系資源(現存)」、「生活系資源」の順である。「自然系資源」は、数という面からは少ないが、弁慶濠や千鳥ヶ淵といった千代田区を代表する観光資源が多い。



【参考】景観資源としての建造物の現状(平成18年6月1日現在)

■ 景観まちづくり重要物件 (区まちづくり推進部資料及び都都市整備局資料に基づき作成)

建物名	場所	都選定
九段会館本館	九段南1-6-5	
大手町野村ビル	大手町2-1-1	
第一鉄鋼ビルディング	丸の内1-8-2	
日比谷公会堂・市政会館	日比谷公園	○
法曹会館	霞が関1-1-1	
日比谷高校資料館・正門・塀	永田町2-16-1	
上智大学1号館	紀尾井町7	
九段小学校	三番町16-16	
靖国神社本殿	九段北3-1-1	
靖国神社拝殿	九段北3-1-1	
靖国会館	九段北3-1-1	
到着殿	九段北3-1-1	
靖泉亭	九段北3-1-1	
能楽堂・舞台	九段北3-1-1	
遊就館	九段北3-1-2	
東京ルーテルセンタービル	富士見1-2-32	○
暁星学園講堂と塀	富士見1-2-5	
東方学会本館	西神田2-4-1	
文房堂ビル	神田神保町1-21	
誠心堂書店	神田神保町2-24	
今荘	神田神保町3-15	
共立講堂	一ツ橋2-2-1	
猿樂町町会詰所	猿樂町2-3-5	
山の上ホテル本館	神田駿河台1-1	
お茶の水SPA館	神田駿河台1-6	
高島宅	神田駿河台4-2-9	
藪蕎麦	神田淡路町2-10	○
鷹岡(株)	神田須田町1-3	
山本歯科医院	神田須田町1-3	
いせ源本館	神田須田町1-11	○
神田まつや	神田須田町1-13	○
ぼたん	神田須田町1-15	○
竹むら	神田須田町1-19	○
海老原商店	神田須田町2-13	
柳森神社	神田須田町2-25	
花与	神田司町2-8	
志村印刷	神田司町2-10	
山梨中央銀行東京支店	鍛冶町1-6-10	
明神下 神田川本店	外神田2-5-11	
神田明神下 料亭新開花	外神田2-8-14	
神田明神本殿	外神田2-16-2	
天野屋(あま酒)	外神田2-18-15	
旧第一生命館(DNタワー21)	有楽町1-13-1	○
第1KSビル	神田淡路町2-3	

※ 「景観まちづくり重要物件」とは千代田区景観まちづくり条例第23条に基づき景観まちづくりに関して重要であり、広く人々に親しまれた歴史的な価値を有する建築物等を指定したものの。

※ 表中「都選定」に○がついている物件は「都選定歴史的建造物」。東京都景観条例第29条に基づき歴史的な価値を有する建造物のうち景観上重要であるとして東京都景観審議会の答申と所有者の同意を得て都が選定したもの。(文化財を除く)

【参考】千代田区内の文化財(国指定)

平成18年4月1日現在

種別	件名	所在地		
有形文化財	建造物	旧江戸城田安門	北の丸公園	
		旧江戸城清水門	北の丸公園	
		旧江戸城外桜田門	皇居外苑	
		東京駅丸の内本屋	丸の内一丁目9	
		明治生命保険相互会社本社本館	丸の内二丁目1	
		日本ハリストス正教会教団復活大聖堂 (ニコライ堂)	神田駿河台四丁目1-3	
		旧近衛師団司令部庁舎	北の丸公園	
		法務省旧本館	霞が関一丁目1	
記念物	特別史跡	江戸城跡	千代田 北の丸公園 皇居外苑	
		史跡	江戸城外堀跡	富士見二丁目・九段北四丁目・五 番町・六番町・麴町六丁目・紀尾 井町・霞が関三丁目・新宿区・港 区
			常磐橋門跡	大手町二丁目7番
	天然記念物	江戸城跡のヒカリゴケ生育地	北の丸公園	
	登録有形文化財	建造物	日本工業倶楽部会館	丸の内一丁目4
松本家住宅主屋			神田多町二丁目9	
太洋ビルディング(丸石ビルディング)			鍛冶町一丁目10-4	
カトリック神田教会聖堂			西神田一丁目1-12	
学士会館			神田錦町三丁目28	
神田神社本殿等			外神田二丁目16-2	
第一KSビル			神田淡路町二丁目3	
山本歯科医院			神田須田町一丁目3-3	

【参考】千代田区内の文化財(都指定)

平成18年4月1日現在

種別		件名	所在地
有形文化財	建造物	旧日比谷公園事務所	日比谷公園
		日本水準原点標庫	永田町一丁目1
	考古資料	茂呂遺跡出土石器	神田駿河台一丁目1
		前野町遺跡出土弥生土器	
無形民俗文化財	民俗芸能	江戸の祭囃子 神田囃子	神田地区
記念物	史跡	神田下水	神田多町二丁目8から鍛冶町一丁目5に至る特別区道
	旧跡	北町奉行所跡	丸の内一丁目8
		評定所及び伝奏屋敷跡	丸の内一丁目4
		林大学頭邸跡	丸の内二丁目1及び2
		東京府庁舎跡	丸の内三丁目5
		南町奉行所跡	有楽町二丁目7及び8
		蕃書調所跡	九段南一丁目6
		塙検校和学講談所跡	三番町24
		加藤清正邸跡	永田町一丁目1
		柳の井・桜の井	千代田(柳の井)
			永田町一丁目1(桜の井)
		関東大震災協力防火の地	神田佐久間町一丁目・同二丁目・同三丁目・同四丁目・神田平河町・神田松永町・神田和泉町
		お玉が池	岩本町二丁目10
		滝沢馬琴宅跡の井戸	九段北一丁目5
		滝廉太郎宅跡	一番町6
		将門塚	大手町一丁目1

【参考】千代田区内の文化財(区指定)

平成18年4月1日現在

種別	件名	所在地	
有形文化財	建造物	日枝神社境内末社山王稻荷神社本殿	永田町二丁目10-5
	建造物	平河天満宮銅鳥居	平河町一丁目7-5
	絵画	英一蝶筆六曲一双源氏物語「明石・濡標」図屏風	日枝神社 永田町二丁目10-5
		絹本着色紅梅図 徳川綱吉筆	
		絹本墨画岩に鶴鴿図 徳川綱吉筆	
		紙本墨画淡彩 枯野雉図 徳川家治筆 附 拝領御筆之御絵添書1通	
		絹本着色 山王社頭之図	神田神社 外神田二丁目16-2
		神田明神祭礼絵巻	
		太田姫稻荷神社縁起絵巻 1巻	
	紙本着色 仏涅槃図 伯喬筆	心法寺 麴町六丁目4	
	彫刻		木造阿弥陀如来坐像
	工芸品	銅製梵鐘	日枝神社 永田町二丁目10-5
		銅製燈籠	
		文化二年奉納山王大権現神号扁額	
	工芸品・ 考古資料	銅製梵鐘 大手町二丁目5番地先出土	四番町1 四番町歴史民俗資料館
	古文書	日枝神社社務日誌	日枝神社 永田町二丁目10-5
		日枝神社朱印状	
		万控帳	四番町1 四番町歴史民俗資料館
	考古資料	平河町遺跡出土資料 陶器壺・陶器皿	
		紀尾井町遺跡出土紀州藩邸関係資料	
歴史資料	贈右大臣大久保公哀悼碑	紀尾井町3 清水谷公園	
	工部大学校趾碑	霞が関三丁目2	
	水野年方顕彰碑	神田神社 外神田二丁目16-2	
	三谷長三郎胸像	外神田二丁目19 宮本公園	

【参考】千代田区内の文化財(区指定)

種別	件名	所在地
有形民俗文化財	狛犬	日枝神社 永田町二丁目10-5
	力石	平河天満宮 平河町一丁目7-5
	狛犬	
	百度石	
	常夜燈	
	水盤(漱盥)	心法寺 麴町六丁目4
	力石	築土神社 九段北一丁目14-21
	狛犬	
	力石	神田神社 外神田二丁目16-2
	石獅子	
	鉄製天水桶	
	水盤	
	大伝馬町八雲神社鉄製天水桶	
	籠祖講関係石造物群	
	山車人形 熊坂	
	小舟町八雲神社鉄製天水桶	
	力石群	柳森神社 神田須田町二丁目25
	富士講関係石碑群	
	富士講祭祀具 附登拝装束一式	四番町1 四番町歴史民俗資料館
	山車人形(飛騨匠)頭一式	
神田の商家生活用具		
力石	三番町18 東郷元帥記念公園	
特別登録文化財	有形文化財(建造物)	日本水準原点標庫 永田町一丁目1

【参考】千代田区内等の地方アンテナショップの現状

◆千代田区内における道府県アンテナショップ

名称	所在地	事業概要(主な取扱商品等)
北海道どさんこプラザ	千代田区有楽町	【物販】菓子、農畜水産加工品【情報コーナー】
あおもり北彩館東京店	千代田区富士見	【物販】農畜水産加工品【情報コーナー】
花まるっ秋田ふるさと館	千代田区有楽町	【物販】農畜水産加工品、工芸品、酒【情報コーナー】
やまがたプラザゆとり都	千代田区霞ヶ関	【物販】菓子、農畜水産加工品、酒【飲食】【情報コーナー】【Uターン情報センター】 【飲食】蕎麦店【ビジネスサポートセンター】
いきいき富山館	千代田区有楽町	【物販】農畜水産加工品、菓子、酒【飲食】【情報コーナー】
加賀・能登・金沢 江戸本店	千代田区有楽町	【物販】菓子、農畜水産加工品、酒【情報コーナー】
滋賀県東京観光物産情報センター	千代田区有楽町	【情報コーナー】【物販】
わかやま喜集館	千代田区有楽町	【物販】農水産加工物、菓子 【情報コーナー】 【多目的サロン】
かごしま遊楽館	千代田区有楽町	【物販】さつまいも館、工芸品 【飲食】黒豚、きびなご、本格焼酎 【I・Uターン／新規就農サポートセンター】

◆千代田区内の市町村アンテナショップ

名称	所在地	事業概要
ふれあい神田市場 (孺恋村アンテナショップ)	千代田区東松下町	明治大学のゼミのプロデュースにより神田の空き店舗を活用して群馬県孺恋村の野菜や加工品の販売を行うアンテナショップとして展開 【物販】【情報コーナー】
なごみま鮮果(三浦市東京支店)	千代田区神田鍛冶町	※明治大学のゼミのプロデュースにより神田の空き店舗を活用して神奈川県三浦市のアンテナショップとして展開 【物販】【情報コーナー】

◆主な市町村アンテナショップ

名称	所在地	事業概要
とれたて村 (八丈町、鴨川市、栗山村、榛名町、妙高市、川口町、尾花沢市、最上町、長崎市)	板橋区大山	※板橋区と交流のある自治体の特産物販売観光情報の提供、イベント等も実施 【物販】【情報コーナー】
麦わら帽子 (南砺市、安曇野市、白浜町、遠野市、長岡市、大崎上島町、酒田市)	武蔵野市吉祥寺	※武蔵野市の友好都市の物産販売や観光情報の提供 【物販】【情報コーナー】

平成 18 年 6 月千代田区調べ

4 参考事例

体感できるまち歩き

< 歩かせる商品づくりー駅からハイキング (JR東日本) >

東日本旅客鉄道(株) (JR 東日本) では、近距離・日帰り旅行者を対象として、「駅からハイキング&ウォーキングイベント」を実施している。千代田区が含まれる山手線の内側で行われる企画は特に人気が高く、各回 2,000~4,000 人と多くの参加者がある。歩道が整備され歩きやすいことや観光資源が近接していることなどから、都心部での企画も多く、地域の歩いて楽しめる魅力、ニュースポットなどを随時取り込み実施されている。



JR 東日本 駅からハイキング
パンフレット

★千代田区を含むコースの例

平成 16 年 11 月 11 日(土)実施 募集定員：2,000 名

「日本有数の電気街、ビジネス街 秋葉原・神田に歴史の跡を求めて」

(寺社、博物館、学生街、古書店街、老舗の並び界隈など見どころ満載のコース)

【コース】秋葉原駅→神田明神→湯島聖堂→ニコライ堂→交通博物館→浅草見附跡→人形・玩具問屋街→秋葉原駅

< さるく博 (長崎県長崎市) >

平成 18 年 4 月 1 日~10 月 29 日の 212 日間で「長崎さるく博」が初めて開催された(※さるく=歩くの長崎弁)。これにあわせて、地元住民らが中心となり 42 のまち歩きコース(うち 31 コースは市民ガイドの解説付きの有料ツアー)がつくられ、総計約 6,800 回のツアーを準備、およそ延 1,000 万人の参加者を記録した。2 年前より「市民プロデューサー」、「さるくガイド」「さるくサポーター」を募集し実地研修・プレイベントを実施し、まち歩きツアーの改善と人材の育成を図ってきた。ガイド付きまち歩きコースに何度も参加できる「長崎通さるく手形」(1 枚 2 千円)の販売等リピーター集客にも力を入れ、大きな効を奏した。現在は、これらの商品の日常化へ向けて準備を進めている。



さるく博マスコットキャラクター



出典：長崎県長崎市

市町村アンテナショップ

<全国ふる里ふれあいショップ-とれたて村（東京都板橋区）>

平成 17 年 10 月、板橋区ハッピーロード大山商店街内に、区の空き店舗対策事業の一環として、全国のまちやむらとの交流を目的とした常設の全国ふる里ふれあいアンテナショップ「とれたて村」がオープン（商店街振興組合が運営）。以前から区と交流のあった 9 市町村と連携して、単に、特産品をおくだけでなく、これらの市町村の観光情報を発信する場、また、各地の生産者に消費者の反応をフィードバックする場として機能しながら、商店街の活性化にも大きく寄与している。この成果が認められ、平成 18 年、中小企業庁の「がんばる商店街 77 選」に選定された。また、同年 9 月には、6 市町村と連携した 2 号店が上板南口銀座商店街にもオープン。

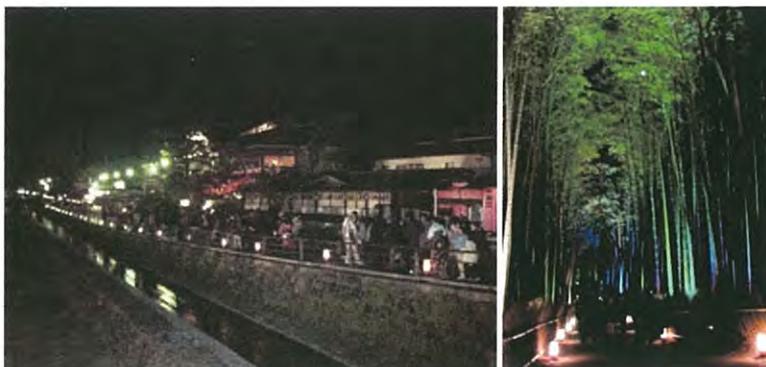


出典：http://www.haro.or.jp/

<京都の「花灯路」－オフ対策・滞在してもらうための新たな取組み

(京都府京都市) >

京都で、冬の閑散期対策として歴史的文化遺産や町並み、竹林などを行灯で照らしつなぐ「花灯路」を実施。2003年から東山、2005年から嵯峨・嵐山で毎年開催し、多くの観光客が訪れる新たな京都の風物詩として定着しつつある。



出典：財団法人日本交通公社

<オープンカフェ実験（石川県金沢市）>

金沢では、国土交通省道路局の支援のもと、市内のシンボルロード（広坂通り）におけるオープンカフェ実験に取りくんている。この実験にあわせて、カフェだけでなく、路上アートマーケット、アートギャラリーなどの街の賑わい創出イベント、自転車利用促進活動（自転車走行レーンの設置）なども実施している。これらにより醸し出される雰囲気の良いさが来街者、商店街関係者両者から評価されている。



出典：国土交通省道路局HP <http://www.mlit.go.jp/road/demopro>

<すべての人に優しい福祉観光都市（岐阜県高山市）>

高山市では、市民や観光客が高齢化している現状を捉え、1996年から「高齢化社会への対応」と、「高齢者や障害者に配慮した観光政策」を最優先テーマとして設定し、「住みよいまちは行きよいまち」というコンセプトで、福祉観光都市づくりを進めている。

首都圏在住の障害者と高齢者を対象に、モニター旅行を重ねることで、飛騨高山観光の課題把握を行い、それをもとに、市役所のさまざまな課と市内の多様な事業者とが役割分担・連携しあって、施策を連動的に実現させてきた。

道路の段差解消、暗渠蓋の整備、車いすトイレの設置などのハード整備だけでなく、車いすの貸し出し、福祉バス「のらマイカー」や福祉タクシーなどの足の確保、「車いすおでかけマップ」や「おもてなし 365 日」のようなバリアに関する情報の発信、福祉フェスティバル、学校教育との連携などによる市民や事業所等の意識啓発に取り組んできた。



出典：財団法人日本交通公社

<地上交通・巡回バス（これまでの千代田区内での取り組み）>

◆丸の内シャトル（生活・観光の足' 2003年運行開始）

「丸の内シャトル」は、南北に広がる丸の内エリアを巡る環境にやさしい無料巡回電気バス。「バスナビ」でオンライン運行情報も提供。周辺美術館の企画展やさくら祭などの催事にあわせた柔軟な運行ルート設定も試行している。

◆スカイバス（見所をお手軽にひとまわり' 2004年10月運行開始）

2階建てオープンバス「スカイバス TOKYO」は、都心の自然と歴史的景観が残る皇居と都市の賑わいが感じられる丸の内・銀座を、約45分（大人1,200円）で手軽にひと回りしている。多くの人のニーズが想定されるもののこれまでなかったコース・時間設定で実施。



出典：財団法人日本交通公社

<地上交通・LRT（ライト・レール・トランジット：次世代型路面電車システム）>

LRTは、観光振興への効果はもとより、人にも環境にも優しい公共交通として注目されている。しかし、我が国では関係主体間の合意形成、コスト負担、導入空間の制約など多くの課題がある。そこで、国土交通省は、LRTの整備促進のため、各種支援を充実させつつあり、全国各地で本格導入を目指した動きがでてきている。

◆富山ライトレール（2006年4月運行開始）

国土交通省のLRT総合整備事業※を適用した第一号路線として富山ライトレール（愛称ポートラム）が注目を集めている。西日本旅客鉄道（JR西日本）の富山港線を母体として整備、富山ライトレール（富山市による第三セクター）により運営されている。

市のまちづくりの基本方針である「公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくり」

の一環として実施された事業で、バス路線の再編によるバスとの乗継ぎ利便性の向上、沿線での駅前広場や駐輪場整備とあわせた総合的・一体的な整備が行われた。一日平均乗客は約5,100人でJR時代の約2.3倍となり、市民や来訪者の重要な足となっている。

※LRT整備に対し、国土交通省の関係部局が連携して、各種補助事業（鉄道局によるLRTシステム整備費補助、道路局と都市・地域整備局による路面電車走行空間改築事業、都市・地域整備局による都市再生交通拠点整備事業等）を一括採択するなど、一体的・総合的に支援する事業。

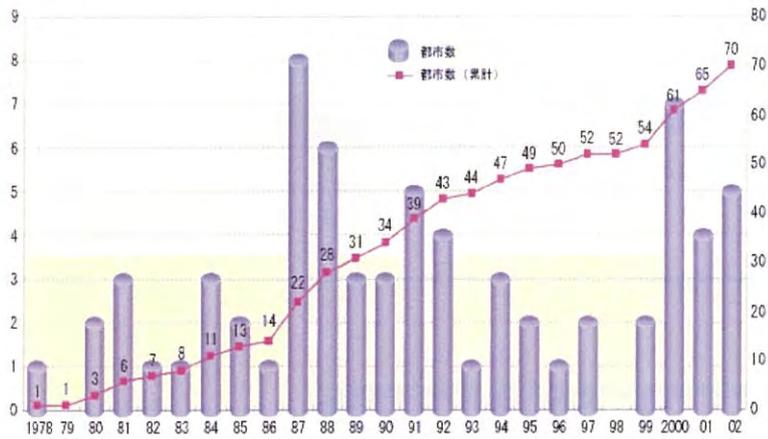


出典：http://www.t-lr.co.jp

◆海外の状況

海外においても、環境面、ユニバーサルデザイン面での優位性から、欧米を中心に 70 以上の路面電車・LRT の復活・導入が進んできている。

図：海外における路面電車導入状況



70年ぶりに復活した路面電車(仏・パリ)



出典：<http://www.tramway.paris.fr/>

出典：これからの都市交通（都市交通研究会）

水辺空間の活用

<「ぐるっと松江堀川めぐり」(島根県松江市)>

水都松江のシンボル松江城を取り囲む堀川では、浄化プロジェクトの機運に乗って、1997年から観光遊覧船の運航を開始。発着場は3箇所、コース全長約3.7km、遊覧時間約50分間で、松江城や武家屋敷などの町並みを川面から楽しめる。桁高の低さに対応した可動式の屋根、冬季のこたつ船、船頭のガイドなども独特の魅力で、年間約30万人の利用者を集める。



出典：財団法人日本交通公社

多様な主体を結びつける取組み

<「横浜観光プロモーションフォーラム」(神奈川県横浜市)>

横浜観光プロモーションフォーラムは、観光・コンベンションに携わる意欲ある企業、団体、市民事業者等が相互に連携し、横浜の集客力を高める具体的な取組みを展開することを目的として、平成15年9月1日に設立。

フォーラムでは、定期的に募集している「横浜への来訪者を増やすユニークな事業」を、「集客性」、「発展性」、「波及性」、「独創性」、「計画性」、「社会性」の視点で審査、認定。認定された事業は、フォーラム全体で支援する仕組みをとっている。

これにより、「横浜バースデー」や「横浜ウエディング」といった新たな商品がつくられ、首都圏の若者を中心に注目されている。

フォーラムの会員数も、当初の89事業者から3年間で倍以上の194事業者にまで増えている。



横浜観光プロモーションフォーラム
認定マーク



横浜ウエディング web

<http://www.welcome.city.yokohama.jp/wedding/index.html>

<オンパク・ONPAKU（別府八湯温泉泊覧会）（大分県別府市）>

別府では、個性ある8つのエリア毎に行われているまちづくりの動きをつなぎ合わせるために、インターネットによる情報の連携、イベントによる現場の連携、テーマによる連携（別府八湯トラスト運動、地域通貨・湯路、移住プロジェクトなど）等の取組みを展開している。その中でも、2001（平成13）年から毎年1、2回ずつ取り組んできた「オンパク（別府八湯温泉泊覧会）」は、地域の商品化・事業化能力を高めることに大きな役割を果たしている。



オンパクのwebにて会員登録を
すると、web上で予約ができ、
オンパクマイレージを貯めること
もできる。



オンパクで提供される全プロ
グラムと町の様々な情報が満
載のパンフレット

【オンパクを通じて実現したいこと(オンパク web より)】

1. 地域の資源(温泉、自然環境、町並み、人材など)を活かした多彩なプログラムの提供を通じて、各種のサービス産業が成長すること
2. オンパクに参加することで住民が健康で前向きな暮らし(ウェルネスライフ)を送ることができ、生活の質(QOL)の向上につながること
3. 旅行者がオンパクに参加し、各種の体験や交流の機会を得ることで別府八湯のファンになっていただき、リピート化や長期滞在化を実現すること

オンパクは、プログラムの種類も数も年々充実し（2005年は、250種・延1,400プログラム）、事業として成り立つ目処が立ちつつある。オンパクをきっかけに、地域内での新たな連携により、新しい商品づくりへの挑戦が生み出されただけでなく、恒常的に事業として成り立つ商品も誕生した。また、地域毎の特色あるまちづくりを進める原動力としての数々のNPOの誕生にも結びついている。

<川場村との交流（東京都世田谷区）>

世田谷区では、1981年からの群馬県川場村との住民交流事業について、2005年から都市と地方の双方が強みを出し合える具体的な取組みに転換。区内の中小青果店に川場村産の直送野菜をおくことで、区にとっては地域の中小青果店の品揃えの充実、村にとっては農産物の安定した販路の確保につながっている。

また、2006年7月には、川場村の協力を受け、農業や森林保全、かやぶき屋根の補修などを体験できる「健康村里山自然学校」を開校し、同学校で学んだ人たちには里山保全の機会を提供するなど、年々その活動は広がりを見せている。



千代田区観光ビジョン

発行：千代田区



平成18年12月

〒102-8688 東京都千代田区九段南1-6-11

電話 03-3264-2111